HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Effect of perioperative mental status on health-related quality of life in patients with adult spinal deformities

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2022-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邉, 悠 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004118

論文審査の結果の要旨

申請者は、成人脊柱変形に対する手術後に脊柱変形が改善しても、健康関連の生活の質には改善が乏しい症例が認められることに着目し、周術期の精神状態の差異が術後経過に関連している可能性を考えた。そこで、本学附属病院整形外科で成人脊柱変形について矯正固定手術を受けた 165 例を対象に、術前と術後の健康関連の生活の質と不安や落ち込みや対人関係などの精神状態について自己記入式質問紙を用いて評価した。そしてこれらの評価項目相互の関連および評価項目と周術期合併症や術後矯正された脊柱変形の程度との関連を検討した。

その結果、術前の精神状態が悪いことと術前および術後それぞれの脊柱変形に関連した生活の質が低いことが関連し、術後の精神状態が悪いことと早期感染、血腫、深部静脈血栓症などの周術期合併症が関連していた。しかし、術前の精神状態が悪かった症例でも、健康関連の生活の質についても精神状態についても術前後で改善が認められ、術前の精神状態が良かった症例と比較してもこれらの改善の程度は劣っていなかった。

これまでの限定的な先行研究からは、術前の精神状態が悪い症例では、術後経過も悪かったと報告されていた。しかし、申請者らの研究結果からは、術前の精神状態が悪い症例についても、術前の精神状態が良かった症例と同等の健康関連の生活の質の回復が期待出来ることが示唆された。本研究結果を基に、申請者は、周術期合併症の管理や術後経過を改善させる上で、術前の精神状態を把握することが重要であると提言している。

審査委員会では、本研究は、臨床上重要であると考えられるがこれまで検討が乏しかった、成人脊柱変形患者の周術期の精神状態が健康関連の生活の質に及ぼす影響を検討し、術前の精神状態を理解しておくことが重要であることを明らかにした点を高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　山末　英典

副査　尾島　俊之　　副査　山内　克哉